

# みどりの大使 が行く!



2023ミス日本みどりの大使  
かみむら か  
上村 さや香

任期が始まり、約2ヶ月が経ちました。たすきをつけた数は約30回！なかでも印象的だったことは林業を学びに山梨県に行ったことです。マスクを外し、森林の香りを身体いっぱい吸い込み、五感をフルに活用し学んでまいりました。

## ◆ 苗木生産者の想い

「生きてらー」今回の視察で1番印象に残った言葉です。甲州弁で「生きてる」という意味です。

視察では、最初に苗木生産の有限会社明見緑化さんを訪ねました。標高が高い地域ではカラマツがよく植えられています。そんなカラマツの種子は、松ぼっくりを割った中にあると聞き、とても驚きました！あんなに大きな木の始まりは、5mm程の小さな1粒の種子なのです。ここから約60年かけて立

派な木に成長し、木材として利用されるのです。東京オリンピックの会場になった国立競技場の大屋根にも山梨県産カラマツ材が使用されているそうです。



明見緑化の皆様と

私は「お仕事をされていて1番やりがいがあるのはどんな時ですか？」と質問をしました。明見緑化の宮下さんは「自分の子供たちのような苗木の成長に『生きてらー』と感じるとき、自分も生きてらーと思う。」とお話してくださいました。「伐って、使って、植えて、育てる」という森林のサイクルの中で、苗木は終わりであり、始まりでもある立ち位置なのだ学びました。改めて、森林も人間も同じ地球の中で困難に立ち向かいながらも工夫し、前に進み続け生きているのだと感じました。

## ◆ 組合長が大切にしていること

続いて、南部町森林組合さんに伺いました。山梨県唯一のJAS（日本農林規格）認証木材加工工場を持つ、とても大きな森林組合です。木材共販所はスギやヒノキ、カラマツなどの美し



南部森林組合 共販所にて

い木目の丸太が高く積み重ねられており、澄んだ青空と相まって圧倒されました。工場では私より若い世代の方が熱い眼差しで加工技術のことを話してくださったことがとても印象的でした。

組合長の木内さんには「お仕事の中で1番大切にしていること」を尋ねました。木内さんは「働いている職員の皆さんが、働きやすい、頑張ろう！と思える職場を作りたい」と仰いました。こうした想いが若い世代に伝わり、森林の未来につながっていくのだと感じました。

## ◆ 山梨での視察を終えて

今回の山梨林業視察では有限会社天女山さんでのドローンを使った森林調査の自動化や、株式会社キーテック山梨工場さんでの100%国産材を使用した合板製造も学びました。

現場の皆さまからたくさん言葉や想い、笑顔をいただきました。日常でもふと周りを見渡すと、森林から生まれたものがたくさんあることに気づき、人はみどりの恵みと共に生きているんだと改めて感じられた視察でした。



視察でした。